

「よい絵本」読書活動ノート 先生方の声

☆いつも手元に置いておける手頃なサイズです。対象読者や本の表紙写真、吹き出しでの内容紹介、気持ちマークなどのアイデアが満載で、読書意欲を引き出すこと間違いなしです。

☆子どもたちは、全校で取り組んでいる朝読・家読で本を読み終えたあと、自分の気持ちマークに色塗りするのがとても楽しみなようです。

☆今まで絵本に触れることが少なかった新任の先生に、「読書活動ノート」を紹介しました。「子どもたちに読み聞かせる本選びに不安を感じていたので、参考にします」と喜ばれました。

☆前に読んでもらったことがある本も、もう一度手にとって、「気持ちマーク」に色をぬっていました。子どもたちにとっても、自分で読もうという意欲につながっています。

☆読み聞かせボランティアのお母さん方から、「自分が子どものときに読んだ本があってなつかしいです。よい本は読みつがれていくのですね」という感想が寄せられました。



■ 編集協力 公益社団法人全国学校図書館協議会
■ 発行 「よい絵本」目録協賛出版社
■ 事務局 福音館書店 〒113-8686 東京都文京区本駒込 6-6-3
FAX. 03-3942-7950

「『よい絵本』読書活動ノート」ご希望の方は、事務局へお申し込みください。

よい絵本 読書活動ノート 活用のてびき

「よい絵本」とは、公益社団法人全国学校図書館協議会が、絵本読書振興のために学校や家庭、地域で子どもたちに絵本をすすめる場合の手がかりとして、選定し発表している優れた絵本の書目です。

教育現場の関係者や絵本研究で構成する全国学校図書館協議会絵本委員会が、子どもへの愛情、創意工夫、絵と文の調和など多角的に絵本を評価する「絵本選定基準」を制定し、これをもとに1977年に第1回「よい絵本」100点を発表し、以来今日まで回を重ねてまいりました。

「『よい絵本』読書活動ノート」は、子どもたちに絵本に親しみ絵本のよさを知ってほしいという願いをもって子どもたち向けに作成されています。「よい絵本」に選定された約280冊の絵本を紹介し、子どもたちひとりひとりが手にして楽しく活動できるように、感想欄を工夫したり読書の記録のページをつけたりしています。司書教諭や学級担任の先生方から児童に手渡し、学級あるいは学年単位での読書活動に活用していただきたいと思います。

すでに学級や学年単位で活用した先生方から、「子どもたちがよい絵本にふれるきっかけになった」「楽しんで感想を記録している」といった声が寄せられています。そこで、さらに多くの学校で「『よい絵本』読書活動ノート」を使っていただきたいと、この「『よい絵本』読書活動ノート 活用のてびき」を作りました。実践校の指導案をご紹介しますので、参考にいただき、絵本と子どもたちをつなぐ手だてとして、ぜひ「『よい絵本』読書活動ノート」をご活用ください。

公益社団法人全国学校図書館協議会ホームページより、「よい絵本」読破賞の表彰状フレームをダウンロードしてご活用ください。

<http://www.j-sla.or.jp/>



《 活用実践例 1 》

第1学年 国語科学習指導案

1. 単元教材名 おおきなかぶ・ほんのひろば （東京書籍 1 年上）
2. 単元の目標

○場面の様子を想像しながら、物語の展開を楽しんで読み、好きなところを音読することができる。

○好きな本を選んで読み、読書を楽しむことができる。
3. 単元の学習計画 おおきなかぶ・ほんのひろば 9 時間

・「よい絵本」の使い方を知り、読みたい本を選んで読書をする。----- 1 時間（おおきなかぶ 8/8）

・「よい絵本」を読み、紹介する本を選んで発表する内容を考える。

※朝の読書、休み時間、家庭学習などの時間をあてる。

・おすすめの本の発表会をする。----- 1 時間（本時・ほんのひろば）
4. 本時の学習

（1）目標

○紹介するお話がよくわかるように順序を考えて話す。（話すこと・聞くこと）

○友だちが紹介するお話について興味を持って聞く。（話すこと・聞くこと）

（2）展開

学習活動・学習内容	・指導上の留意点	◆評価（方法）	準備・教具	時間
1 本時の課題を知る。	・図書館で行い、楽しい雰囲気の中で発表会ができるようにする。		「よい絵本」のポスター	2分
おすすめの本をしょうかいしよう				
2 発表会の仕方を確認する。	○発表すること ・本の題名 ・作者の名前 ・一番好きなどころ ・「よい絵本 読書活動ノート」の感想マーク ○発表する時の注意 後ろまで聞こえる声で話す。順序を考えて話す。 ○聞く時の注意 発表する人の方を見る。静かに聞く。		感想マーク たのしい かなしい どきどき なるほど ふしぎ ほのぼの そのほか	5分
3 みんなに本の紹介をする。	・紹介する本を手にとって発表させるようにする。			33分
	・同じ本を読んだ児童がいたら、自分の読書活動ノートを見ながら、感想マークを発表させるようにする。			
	◆紹介するお話がよくわかるように順序を考えて話している。（発表の態度）			
	◆友だちが紹介するお話に興味を持って聞いている。（態度）			
4 まとめをし、学習の見通しを持つ。	・今後、友だちが紹介した本の中から読んでみたい本を読んでいくように伝える。			5分

5. その他
- ・「よい絵本」は、できるだけ身近なところに置き、いつでも読めるようにしておく。
- ・「よい絵本」の使い方の指導後、発表会まで一週間程度あけるようにする。
- ・これからも、読書活動ノートを続けて使えるようにする。

《 活用実践例 2 》

第2学年 学級活動指導案

1. 題材名 「絵本を楽しもう」
2. ねらい 「よい絵本 読書活動ノート」を参考にして自分から進んで絵本を見つけ、楽しく読むことができる。
3. 展開

過程	学習活動および内容	指導上の注意点	資料・教具
導入 8 分	1 本時のめあてを知る。	○「よい絵本」のポスターを見せ、多くの絵本の中から特におすすめの絵本があることを知らせる。	「よい絵本」のポスター
	「よい絵本」の中から読みたい本をえらび、楽しく読もう。		
展開 27 分	2 絵本の読み聞かせを聞く。	○目録の中の『ろくべえまってるよ』を読み聞かせ、絵本に興味を持たせる。	文研出版 『ろくべえまってるよ』 灰谷健次郎・作
	3 「よい絵本 読書活動ノート」の使い方を話し合う。 ・ページの見つけ方 ・情報の読み取り方 ・感想の表し方	○「よい絵本 読書活動ノート」から『ろくべえまってるよ』のページを見つけるには、目次や索引を見ればよいことに気付かせる。	「よい絵本 読書活動ノート」児童数分
終末 10 分	4 本を選んで読む。	○目次や索引が、教科書や図鑑などにもあることに気付かせる。	p.66 下段を拡大コピーしたもの
		○絵本の紹介として、たくさんの情報が書かれていることをおさえる。 ・書名 ・作者名 ・出版社名 ・対象学年 ・表紙写真 ・定価 ・本のサイズ ・紹介文 ○『ろくべえまってるよ』を聞いたあとの、自分の気持ちと同じマークに色をぬり、どうしてそのマークに色をぬったのか話し合う。 ○読みたい本を選んで読書をする手順を確認する。 ・「よい絵本 読書活動ノート」の中から読みたい本を一冊選ぶ。 ・読みたい本が決まったら、本を取りに行く。 ・読み終わったら、「よい絵本 読書活動ノート」の気持ちを表すマークに色をぬる。 ・次の本を選ぶ ○全体の絵を見てから文を読んでいくなど、読み方は様々だが、最後までしっかり読んで楽しむことが大切であることをおさえる。	「よい絵本 読書活動ノート」に記載されている絵本 269 冊（中学生向けの本 10 冊を除いたもの） ※自校の図書館でない本がある場合は他館から借り受けるなどして用意する。
終末 10 分	5 読んだ本について発表しあう。	○本の題名と色をぬったマークだけでなく、どうしてそのマークにしたのか、理由も発表させる。	
	6 本時の学習のまとめをする。	○読書のあゆみ（p.150～）から読んだ本の書名を見つけさせ、日付を記入させる。	
終末 10 分		○楽しく読めたか感想を聞き、今後の読書に「よい絵本」を活用するよう意欲付けをする。	
		○今まで読んだことがある本も、もう一度読んで、マークをぬるようにする。	

4. 評価
- ・「よい絵本 読書活動ノート」を参考にして、自分から進んで絵本を見つけ、楽しく読むことができたか。
5. 発展的指導
- ・「よい絵本」は、2 年生全クラスが利用しやすいようにできるだけ複本で用意し、教室前の廊下に 1 か月間別置しておく。
- ・個人の読書記録として、今後も続けてノートを活用していくように指導する。